

2019 年 印刷文化典



印刷文化賞に稲木、山田、樺山の3氏 功労賞、振興賞、特別賞の39氏、1団体を表彰 第18回印刷産業環境優良工場表彰

第2部では「印刷と私」エッセイ・作文コンテストとGP 環境大賞等の表彰

「印刷と私」テーマに小山薫堂氏と鈴木杏樹さんがトークセッション

一般社団法人日本印刷産業連合会が主催する4年に一度開催の9月印刷の月「2019 年印刷文化典」は、9月13日（金）午後2時30分から東京・紀尾井町のホテルニューオータニ「鶴の間」で開催され、記念式典第1部の日印産連表彰で印刷文化賞3氏、印刷功労賞14氏、印刷振興賞22氏、特別賞1団体3氏を表彰するとともに、第18回印刷産業環境優良工場表彰では、研文社・尼崎工場に経済産業省商務情報政策局長賞、日印産連・会長賞4工場、同特別賞1工場、同奨励賞7工場がそれぞれ表彰された。

記念式典第2部では、グリーンプリンティング PR 大使の小山薫堂氏と女優で司会者の鈴木杏樹さんのトークセッションに続き、第3回「印刷と私」エッセイ・作文コンテストの表彰式、さらに、「2019 年 GP 環境大賞等（GP 環境大賞・GP マーク普及大賞・GP 資機材環境大賞）の表彰式が行われた。

このあと、午後6時から680名を超す参加を得て懇親会が盛大に開催され、各種表彰受賞者、「印刷と私」エッセイ・作文コンテストの受賞者を囲んで和やかな歓談が繰り広げられた。

記念式典 第1部

記念式典は、全員起立しての国歌斉唱に続き、主催者を代表して金子会長は、「本年の『9月印刷の月』は4年に一度の『印刷文化典』の年にあたります」と述べ、経済産業省をはじめとするご来賓のご出席にお礼を述べた後、「今、社会は新しいテクノロジーによってこれまでの産業構造を一新するような変化が急速に進んでいます。印刷産業が顧客の課題、社会の課題を

解決する良きパートナーとして社会に貢献し、永続的に発展することを目指し、日本印刷産業連合会は活動しております。今年度からSDGs推進プロジェクトを新設し、常設委員会の活動とSDGsの目標に関連づけて事業を進めており



主催者を代表して挨拶する金子眞吾会長

ます。

活動の重要テーマとしては、「地方創生」「女性活躍推進」「地球環境」の3つを掲げています。

「地方創生」の取り組みとしては、内閣府の進める「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」に加入し、3月には「印刷産業の地方創生事業事例発表会」を開催し、全国の地方創生地域活性化などに関わる印刷会社の成功事例を共有しました。「地方創生」には、全国の印刷会社が貢献に参加することができ、特に日本各地にある文化財を記録しコンテンツとして発信していく事業が大変有望であると考えています。

「女性活躍推進」では、日印産連会員団体の女性経営者を対象とした研修を行い、経営ノウハウ・スキルを提供すると共に今後の企業経営に資するネットワーク作りを進めています。

「地球環境」においては、今年の「G20 大阪」でもテーマとなった「海洋プラスチックごみ問題」に対処するため、経済産業省が主導する CLOMA に参加し、サプライチェーンの中で印刷産業としての役割を果たせるよう活動を進めています。

さる8月にロシアのカザンで第45回技能五輪国際大会が63カ国1,300人を超える選手の参加のもと開催されました。印刷職種の日本代表湯地龍也選手は、参加15カ国の中で第6位に入賞し、敢闘賞を受賞しました。皆様とともに湯地選手の健闘を讃えたいと思います。

本日はこの会場で、表彰式が行われます。「日印産連表彰」では、「印刷功労賞」「印刷振興賞」「特別賞」に加え、今回は最高賞として「印刷文化賞」が贈られます。また「印刷産業環境優良工場表彰」は、地球環境に配慮した印刷製品を製造してこられた印刷工場が受賞されます。併せて印刷産業の環境自主基準である印刷サービスグリーン基準を満たした印刷物を多く製造された企業にGP 環境大賞が授与されます。さらに

今回の印刷文化典では、「印刷と私」エッセイ・作文コンテストの表彰式を行います。小山薫堂氏に審査委員長をお願いし、素晴らしいエッセイや作文が選ばれています。

それぞれの賞を受賞される皆様には心からの敬意を表するとともに、これからも業界の発展のために、お力添えいただきますようお願い申し上げます」との主催者挨拶を行った。

ついで司会者より出席のご来賓が紹介されたあと、代表して経済産業省商務情報政策局・審議官の小笠原陽一氏が「日本印刷産業連合会の皆様は印刷関連10団体のとりまとめ役として我が国の産業発展と国民生活、日本文化の向上に大きな役割を果たしておられます。本日は、多くの方の表彰が行われるとのことで、長年にわたり印刷産業の発展に寄与されたご功績で表彰を受けられる皆様方、また環境対策という社会的課題に取り組まれたということで環境優良工場表彰、あるいはグリーンプリンティングの環境大賞などで表彰される皆様、さらには『印刷と私』のエッセイで優秀作品に選ばれ表彰される皆様、心よりお祝いを申し上げます。

印刷産業は全国に23,000を超える事業所が活動されており、地域に密着し日々創意と工夫を重ねられ、様々な事業展開をされておられると承知をしております。まさに日本の産業を支え、また、地域を支え、日々の生活を支える非常に重要な産業であると認識しております。

その中で日本印刷産業連合会は10の団体、会員企業7,408社を束ねられ、印刷産業界の中心として非常に重要な役割を担っておられる組織であると承知をしております。

昨年6月より金子会長のリーダーシップのもと、グランドデザインに定められた新たな価値創出に向けた活動、



来賓祝辞・小笠原陽一経済産業省商務情報政策局審議官

適正誠実な企業行動、地球環境への高い配慮、社会に向けた情報発信の強化といった非常に重要な方針を立てられ活動されていると伺っています。国連の提唱するSDGs 持続可能な発展に向けた目標ということも踏まえられてそれと関連づけた活動をされていることも承知しております。地球環境への配慮はG20で取り上げられた海洋プラスチックゴミについて、印刷産業が真剣に検討、かつ取り組まれていることについては誠に意義深く考えています。こういったプラスチック問題については経済産業省もクリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス（以下「CLOMA」）といった枠組みを立ち上げ、サプライチェーンを構成する企業の方々との連携強化、また代替素材の開発と普及、すでにこの業界は取り組まれている方もいらっしゃるかと伺っておりますが、そういった推進を加速させているところでございます。CLOMAは日本印刷産業連合会や全日本印刷工業組合連合会など、今日お集りの多数の方々にご参画をいただいております。

いま申し上げた通り、全国各地域に根ざした事業を展開されている印刷業界の皆様の活動なくして日本の経済の成長はあり得ないと考えております。印刷産業が社会から求められ、大事な存在であり続けるための取り組みを引き続き着実に進めていただくことを期待しております」と述べた。

日産連表彰

司会者より、「今年は4年に一度の印刷文化典の開催年に当たり、印刷文化賞、印刷功労賞、印刷振興賞、特別賞の4賞の表彰が行われます」と会場にアナウンス。

金子会長をプレゼンターに印刷文化賞受賞の稲木歳明氏（共同印刷株式会社・相談役）、山田雅義氏（大日本印刷株式会社・特別顧問）、樺山紘一氏（印刷博物館館長）が登壇、それぞれ金子会長より表彰状と記念品が授与された。

印刷功労賞には、別掲14氏（11頁）が表彰され、代表してトッパン・フォームズ株式会社・櫻井醜氏に金子会長より表彰状と記念品が授与された。ことあと、壇上で、金子会長を囲んで記念撮影が行われた。

印刷振興賞には、別掲22氏（15頁）が表彰され、2組に分けて授与式が行われた。第1組は、代表して立花志明氏（株式会社山川印刷所）、2組目は、代表して柴田和夫氏（フジマーク株式会社）に表彰状と記念品が贈られ、それぞれ金子会長を囲んで記念撮影が行われた。

各種活動を通じて印刷産業界の地位向上に寄与した個人・団体などに贈られる特別賞は、福島県印刷工業組合の「福島伝統色事業＝ふくしまのいろ」の活動が評価され受賞。また、宮腰巖氏（一般社団法人日本印刷産業機械工業会・会長）、早瀬真夏氏（亜細亜印刷株式会社）、湯地龍也氏（株式会社トッパンコミュニケーションプロダクト）の3氏に特別賞が授与された。壇上で金子会長を囲んで記念撮影が行われた。

◆ 印刷文化賞



印刷文化賞・稲木歳明氏（共同印刷株式会社相談役）



印刷文化賞・山田雅義氏（大日本印刷株式会社特別顧問）



印刷文化賞・樺山紘一氏（印刷博物館館長）



金子会長を囲んで印刷文化賞受賞の諸氏

◆ 印刷功労賞



印刷功労賞受賞代表
櫻井醜氏（トッパン・フォームズ株式会社）



印刷功労賞受賞の諸氏

◆ 印刷振興賞



印刷振興賞（1組目）受賞代表
立花志明氏（株式会社山川印刷所）



印刷振興賞受賞の諸氏（1組目）



印刷振興賞（2組目）受賞代表
柴田和夫氏（フジマーク株式会社）



印刷振興賞受賞の諸氏（2組目）

◆ 特別賞



特別賞受賞者代表
福島県印刷工業組合（佐久間信幸氏）



特別賞受賞の諸氏

今年度の環境優良工場表彰は 13 工場

引続き第 18 回環境優良工場表彰式に移り、今年度は商務情報政策局長賞 1 工場、日印産連会長賞 4 工場、特別賞 1 工場、同奨励賞 7 工場の計 13 工場の表彰が行われた。

経済産業省商務情報政策局長賞には株式会社研文社・尼崎工場（代表取締役社長・網野勝彦氏）が受賞し、経済産業省商務情報政策局コンテンツ産業課長・高木美香氏より賞状と記念品が授与された。高木美香氏を囲んで記念撮影が行われた。

一般社団法人日本印刷産業連合会会長賞には、光写真印刷株式会社（代表取締役社長・惟村唯博氏）、足利印刷株式会社（代表取締役・森田公博氏）、有限会社オザワ（代表取締役・小澤耕太郎氏）、有限会社篠原紙工（代表取締役・篠原慶丞氏）の 4 工場が受賞、代表して有限会社オザワ・小澤耕太郎氏に金子会長より表彰状が贈られた。このあと記念撮影が行われた。

ついで特別賞には、オオゼキ写真印刷株式会社（代表取締役社長・大関邦夫氏）が受賞、金子会長より表彰状が授与された。

ついで、奨励賞の一般部門では、株式会社ガイドー・本社工場（代表取締役・高桑真樹氏）、八潮化学株式会社・本社工場（代表取締役社長・小林直人氏）、マルワ工業株式会社・春日井本社工場（代表取締役社長・吉見正彦氏）の 3 工場、小規模事業所部門では、株式会社佐久印刷所・本社工場（代表取締役社長・白田行孝氏）、株式会社文伸・BUN - SHIN FACTORY（代表取締役

社長・川井信良氏）、タカラ印刷株式会社（代表取締役社長・津田邦夫氏）、株式会社協和テック・本社工場（代表取締役・浅野貴之氏）の 4 工場の合計 7 工場が選ばれ、代表してマルワ工業株式会社の吉見正彦氏に金子会長より表彰状が授与された。金子会長を囲んで記念撮影が行われ、第 18 回環境優良工場表彰式を終えた。

このあと、受賞者を代表して、印刷文化賞を受賞した稲木歳明氏が謝辞に立ち、「このたびは荣誉ある印刷文化賞を賜り大変光栄に存じております。日本印刷産業連合会は、私が会長在任中の 2015 年に設立 30 周年の節目に、役割や活動のテーマを再構築するグランドデザインの策定に取りかかりました。後任の山田会長もこれをさらに推進され、加えてグリーンプリンティング認証制度の周知・普及にも取り組まれました。また、樺山館長は、印刷産業の高い技術や文化を側面から周知することにご尽力いただきました。こうした活動が印刷産業への理解を深めることへとつながり、本日このような素晴らしい賞をいただきましたことを受賞者一同、大変うれしく思っております。私ども受賞者は、本日の受賞を改めて感謝し、印刷産業のますますの発展を願っております」と謝辞を述べ、記念式典第 1 部を終えた。

◆ 環境優良工場表彰



経済産業省商務情報政策局長賞
株式会社研文社・尼崎工場
（代表取締役社長・網野勝彦氏、河田和弘氏）



経済産業省商務情報政策局長賞で
高木美香課長を囲んで記念撮影



日印産連会長賞
有限会社オザワ
（小澤耕太郎氏）



日印産連会長賞受賞で金子会長を囲んで記念撮影



日印産連特別賞受賞
オオゼキ写真印刷株式会社（大関邦夫氏）



日印産連特別賞受賞で記念撮影



受賞者を代表して謝辞を述べる稲木歳明氏



日印産連奨励賞
マルワ工業株式会社（吉見正彦氏）



日印産連奨励賞受賞で金子会長を囲んで記念撮影

記念式典 第2部



鈴木杏樹さん

記念式典第2部は休憩を挟んで、午後4時15分から開始され、「印刷と私」をテーマに、小山薫堂氏と女優で司会者の鈴木杏樹さんがキレのあるトークをたたかわせた。

次いで、「印刷と私」エッセイ・作文コンテストの表彰式が行われ、一般の部・小学生の部それぞれの入賞者へ小山薫堂氏より表彰状が授与された。

引き続き、2019年GP環境大賞等表彰に移り、GP環境大賞、GPマーク普及大賞、GP資機材環境大賞の受賞者それぞれに小山薫堂氏より表彰状が授与された。

「印刷と私」 トークセッション

小山薫堂氏は、グリーンプリンティングPR大使に2016年より就任し印刷産業にも造詣が深い。「新装になった某ホテルへ行ってしまい、すこし遅れてしまいました。鈴木杏樹さんとは、初めてお目にかかるので簡単な打ち合わせと思っていたのですが、ぶっつけ本番となってしまいました」と内幕を披露。

番組台本についての印刷談義に花を咲かせた後、小山氏は「自分の名前が台本に印刷されているのを見て本当にうれしかった」と振り返った。「印

刷物になるとオフィシャルというか、世の中に認められた」との思いを強くしたと言う。いまでもNHKは表紙がついた体裁の整った台本が渡される。一説には保存のために行っているとも言われているとのこと。料理の鉄人という番組はもう29年前になるが、データをフロッピーディスクで保存し、刷り出したものは用が済めば捨てられる。FDでデータ化してあっても技術の進展が非常に早く、FDを開けないということも起こっている。そういうことを体験するたびに印刷の素晴らしさを感じるそうだ。

鈴木杏樹さんは、出演する際のスタンスは基本的に印刷物にあった台詞通りに演ずるという。薫堂氏は、台本を変えられたときに「悔しい」と思うときと、「参りました」と思うときもある、と言う。「おくりびとの映画の際、納棺師の社長の山崎（努）さんが、フグの白子焼きを食するシーンで『困ったことに、美味いんだな、これが』という台詞を発するのですが、『困ったことに』は山崎さんのアドリブです。詳細は省きますが、これが生と死の微妙な心の揺らぎを微妙に表現した言葉遣いだと思うのです」というエピソードを話された。

「日頃どのような生活をしているのですか」と私生活に踏み込んだ質問にも杏樹さんは、「お休みの日は泳ぎにいらいます」と答え、「空いている時間の多くは資料を読んだり次の台本を読んだりしています」と実生活を披露。「女優さんはいろいろな人生を仮体験ができる訳ですが、その期間に役柄に憑依するんですか」との質問に、「その役の中に私が入るというイメージで



小山薫堂氏

す」と答え、「役を自分に引っ張る方もおられますが、私は引っ張られる側ですね」と自己分析。「私はある時から年齢が止まっているような感じがします。自分の中の好奇心や躍動感はどうどん増えています。番組で加山雄三さんにお会いしたとき、『お孫さんとのゲーム遊びにも手を抜かないんだ。本気で打ち負かす』というお話を聞いて『こんな生き方がいいな』と思いました」とのこと。

「当社では、バースディサプライズを実践しています。企画の原点だと思います」と薫堂氏は言い、「誰かを楽しませたいというのが企画の原点」とも言う。「サプライズプレゼントというのは当事者のデータというか好みとか欲求を的確に理解していないと戸惑われてしまうかもしれませんよね」と杏樹さん。「放送作家になってよかったと思うことは、世の中にある面白いものを見つけて、それをいかに分かりやすく伝えるか。咀嚼の作業だと思っています」と番組作りの心構えを話した。

鈴木杏樹さんのお誕生日は9月23日。薫堂氏からサプライズプレゼントとして花束と小さな紙袋が手渡された。小さな紙袋に同封された印刷物には「これはメガネです。あなたの未来がとても眩しすぎるから、そのグラスが必要です」というメッセージが添えられていた。印刷の持つ高いメッセージ性と特別感を具現化する一例。薫堂氏は「印刷物はサプライズに向いている」と総括した。

楽しいトークも時間切れとなり、惜しめない拍手とともに終演となった。



トークセッションの会場風景



お誕生日祝いにサプライズプレゼント



表彰に先立ち講評する
小山薫堂委員長



小学生の部の最優秀賞受賞の
植木涼太さん(小6)



優秀賞受賞の
阿部松代さん



優秀賞受賞の
山本真理子さん



保護者を交え記念撮影

第3回「印刷と私」 エッセイ・作文コンテス トの表彰式

表彰式に先立ち審査委員長の小山薫堂氏が、「回を重ねるごとにクオリティーが高くなり、審査に迷う作品がたくさん寄せられています。特に子供たちの作品に心うたれます。小学校3年生のとき先生に『小山くん作文うまいね』と先生にほめられたことが文字を書く仕事について原因かもしれません。このコンテストから将来、自分の作品を印刷物によって残せるような作家、あるいは脚本家が出てきたらうれしいなと思っております。今回もいろいろな作品を読んで胸が熱くなる場面が何度もありました。印刷は、自分だけで終わらず、誰か他の人を巻き込んで思いを形にする、未来に何かしっかりとしたものを残す、優しさの足跡と言いますか、なにかそういうものなんだなと思いました。皆さんのお手もとにも配られると思いますが、それを読んでいただいて印刷の価値を噛み締め、そして誇りを持っていただければいいなと思います」と講評。

表彰に移り一般の部の受賞者、小山薫堂最優秀賞受賞の星野有加里さん(欠席)、同優秀賞受賞の阿部松代さん、山本真理子さん、小学生の部では、小山薫堂最優秀賞に植木涼太さん(小6)、同優秀賞は青木麻奈さん(小5)、生関真衣さん(小5)、大日方伶衣さん(小6)、田附奈々花さん(小6)、中島唯翔さん(小2=欠席)が壇上に上がり、プレゼンターの小山薫堂委員長よりそれぞれに表彰状が授与された。この後壇上で金子会

長、小山薫堂氏を囲んで記念撮影を行った。引き続き保護者を交えての記念撮影も行われた。また、壇上で司会者よりマイクを向けられた受賞者のユーモアを交え、物怖じしないその受け答えに会場内は驚きと賞賛の声に包まれた。

2019GP環境大賞等表彰

ついで、2019GP 環境大賞表彰に移り、GP 環境大賞には、NTTタウンページ株式会社、大阪商工信用金庫、埼玉県議会、東京都の4団体が受賞、準大賞には、株式会社ジェイアール東日本企画、東武鉄道株式会社、一般社団法人日本自動車連盟、株式会社ホンダコムテック、武蔵野大学が受賞し、小山薫堂グリーンプリンティング PR 大使からそれぞれに表彰状と記念品が贈呈された。

引き続き GP マーク普及大賞の表彰式に移り、大賞には、NTT印刷株式会社、六三印刷株式会社の2社、準大賞に伊藤印刷株式会社、岩岡印刷工業株式会社、株式会社笠間製本印刷、株式会社太陽堂印刷所、

株式会社文伸の5社が受賞、小山薫堂 PR 大使から表彰状と記念品が授与された。

ついで、GP 資機材環境大賞では、資材部門では株式会社日研化学研究所、機材部門では富士ゼロックス株式会社が受賞、それぞれ小山薫堂 PR 大使より表彰状と記念品が授与された。

この後、GP 環境大賞を受賞した NTT タウンページ株式会社の代表取締役社長・酒井紀雄氏が謝辞にたち、「本日は栄えある大賞をいただきましてありがとうございます。私どもは電話帳を発行している会社です。あまり知られていませんが、ここ数年電話帳の発行は増えています。自治体様と災害時における防災関連情報の需要が高まっているからです。大量の紙を使用していますので、環境負荷の軽減に努力をしていくことが企業の使命と考えています。今回の受賞を機にさらに取組みを強化してまいりたいと存じます。本日はありがとうございました。」と述べ記念式典を終えた。



GP 環境大賞受賞者による記念撮影



GP 資機材環境大賞受賞者による記念撮影



GP マーク普及大賞受賞者による記念撮影



謝辞・酒井紀雄氏
(NTT タウンページ株式会社代表取締役社長)



懇親会の開会挨拶・臼田真人副会長



680名を超す参加者で賑わう

懇親会

「印刷と私」エッセイ・作文コンテスト受賞者も参加

9月印刷の月「2019年印刷文化典」懇親会は、午後6時からご来賓、会員団体及び関連業界、表彰受賞者（日印産連表彰、環境優良工場表彰、GP環境大賞等表彰、『印刷と私』エッセイ・作文コンテストの入賞者）の皆様を含め、680名を超す参加を得て盛大に開催された。

会場にはエッセイ・作文コンテスト小学生の部で入賞を果たした皆さんが保護者同伴で、懇親会に参加、審査委員長の小山薫堂氏と交歓する微笑ましい姿も見られ、従来の懇親会には見られない風景が広がった。

司会者より記念式典の無事終了が報告された後、開宴に先立ち、臼田真人副会長が開会の挨拶に立ち、「8月の九州北部の豪雨、そして台風15号の甚大な被害で、未だに停電や断水が続いています。私たち全印工連

の仲間が多数いるということで他人ごとではありません。停電により情報網が寸断されていて、欲しい情報が全く伝わっていません。必要な情報を必要ときにすぐにお届けするという、印刷産業の本来の役割である情報を正確に届け、さらに人々を豊かにするための教養、文化をつなぐための印刷というものを改めて見直すきっかけをこういった災害からいただいたような気がします。被災された方の一日も早い復興を祈っています」と述べ、開宴を告げた。

ついで、乾杯の発声に立ったプリプレス&デジタルプリンティング機材協議会の辻重紀会長は、「昨年は、IGAS2018が開催され来年6月にはドイツ・デュッセルドルフでdrupa2020が開催されます。AIやIoT、マーケティングオートメーションなど新しい技術が次々と登場して、企業環境は大きく変化しております。印刷産業はそういった新しいニーズ



衆議院議員・海江田万里氏の挨拶



作文コンテストの受賞者と保護者を交えて記念撮影

をいち早くとり入れ、融合して新たなマーケット獲得をしていくことが期待されます。当会としては皆様方のお役に立ってまいりたい」と述べ、歓談に移った。

宴の半ば、お祝いに駆けつけた衆議院議員の海江田万里氏が挨拶、祝電披露を挟んで、歓談が再開。

午後7時過ぎ、浅野健副会長が中締めのため登壇、壇上に金子会長を招き、手締めの代わりに乾杯をもって9月印刷の月「2019年印刷文化典」の全行事を終了、お開きとなった。



乾杯・辻重紀会長
(プリプレス&デジタルプリンティング機材協議会)



技能五輪 敢闘賞の湯地龍也選手を囲んで



海江田万里衆議院議員と金子眞吾会長



お開きの乾杯・金子眞吾会長と浅野健副会長